

I 防災の基本

自助・共助・公助

防災対策は、自助(自分の命は自分で守る)、共助(地域で助けあう)、公助(行政が担う防災対策)の連携が重要です。特に、災害初動期に非常に大きな役割を担うのが自助・共助です。

阪神・淡路大震災では、倒壊家屋の下敷きになった被災者の7割以上の方が、近所の人や家族親戚に助けられました。自衛隊等による救出者は3割に満たなかったといわれています。

発災後72時間以内の救出が、被災者の生死を分けます。自衛隊等の到着を待たずに、倒壊家屋の下敷きとなった家族や近所の人などを救うことができるのは、その場に居合わせた方々です。

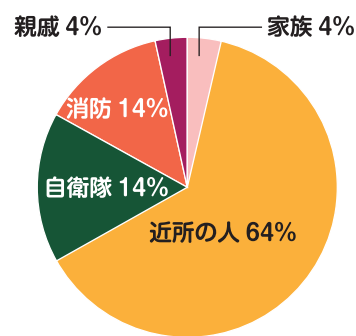
住民の役割

- 地域の地震や風水害について知る
- 防災知識を身に付ける
- 落ち着いて自分の身を守る
- 家族を守る

行政の役割

- 防災マップ等の作成
- 被害想定・被害軽減策の検討
- 地域防災体制の仕組みづくり

阪神・淡路大震災で人命救助をした人の内訳



(出典：日本建築学会大学学術講演梗概集)

地域の役割

- 地域防災活動の推進
- 協力して消火・救出活動

事業所の役割

- 地域との助け合い
- 顧客、従業員などの安全確保



ポイント

《家族で話し合う防災対策》

家族が一緒のときに災害が起きるとは限りません。

普段から災害時のお互いの連絡方法や避難先、備蓄品などについて確認しておきましょう。

また、大規模災害時には、公共交通機関がストップし、市外に働きに出ている家族が、しばらく帰ってこれない状況で生活しなければならないことも想定されます(P24 知っておきたいこと参照)。こうした場合の対応についても、事前に話し合っておきましょう。



ポイント

《危険な場所の確認》

自分や家族の生命・財産を守るために、住んでいる地域の状況を確認しましょう。

- ①平成30年6月の大阪府北部地震では、ブロック塀が倒壊し、小学生が下敷きとなる痛ましい事故がありました。自宅周辺や、通勤・通学路等の日ごろ利用する場所の危険箇所を確認しましょう。
- ②ハザードマップ(P32～P55 参照)や、都が公表している以下のホームページ等で確認しましょう。



地震に関する地域危険度測定調査



検索 *click !!*

液状化対策ポータルサイト



検索 *click !!*